

2022年度 海の星カトリック幼稚園 学校関係者評価

I. 学校関係者評価委員の評価

委員は5名（教会司祭 園児保護者 地域住民 教会信徒・園パート職員 司祭・非常勤講師）

各項目の評価とコメントの要約はこの順で掲載する。

委員には、行事（マリア祭、ふれあい参観、星まつり、運動会、クリスマス聖劇、クリスマス礼拝、おゆうぎ会）の参観、毎月「て・くむ」の購読、日常の保育の観察、2回の対面の学校関係者評価委員会のほか、教職員の学期毎に実施した自己評価を参考にして3月に評価をしていただいた。

【評価 A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった】

全体評価

- 【 A 】 突発的な問題、職員の不足などに協力して対応した。先生方は自己評価から次年度に向けての計画を考え、熱心に取り組んでいる。満3歳児の保育には園生活に触れる経験があることは意義深い。
- 【 A 】 カトリックの教え「与える」ことの実践がある。日々の子どもの関わりや保護者とのコミュニケーションに工夫をしている。判断が難しい場合もあろうが、このまま大胆に指導してよい。幼稚園は小学校に進んでも帰りたくなる場所であり続けてほしい。
- 【 A 】 少人数ならではの良い保育がなされている。先生方の愛情と良いチームワークによって子どもたちは良い影響を受けて成長している。
- 【 B 】 保育者が多忙の日々の中で常に平静を保ち、園児と向き合っている姿に頭が下がる。
- 【 A 】 先生たちは、子どもたちを愛しその成長を家族と共に支えている。献身的な愛によって子どもから信頼され、尊敬され、カトリック精神をよく理解して神様の子どもとして成長できるように助けている。

評価項目ごとの評価

① 計画性のある保育の中でゆとりを持って子ども一人一人を受けとめる。

- 【A】 カリキュラム「めばえ・であい・ふれあい・与えあい」の整備ができ、成長にあわせ、また個々の課題にあわせて指導した。子どもたちが自由に自分の意見を発表しあい、他者を褒めることができるのは良い教育の実である。
- 【B】 時間の制約の中で子どもたちの個々の性格に向き合い、寄り添った。
- 【A】 コロナや職員の変動など難しい状況下でも、目標を立て、チームワークをいかして課題に取り組んだ。
- 【B】 学期ごとの行事を通して、子どもたちは物事に取り組む意欲や達成感を体験し、自信と勇気につながった。
- 【A】 毎日の活動には、子どもたちのレベルに合わせて調整され整備されたカリキュラムが提供された。

② 自然環境や社会に感心を持たせ、知識や発想を広げる喜びを体験させる。

- 【A】 幼稚園では、水、砂を使い、花、木、木の葉、昆虫など自然を使う遊びや野菜の栽培などで、食育にもつなげた。雪遊びや氷のでき方を見るなどを楽しんだ。交番訪問は断念したが、訪問者と関わることも社会体験となった。
- 【B】 芋ほり遠足や節分、ひな祭りなど、文化や行事を子どもたちの体験として記憶に残すことができた。
- 【A】 園外活動が難しい中で、栽培や身近な自然を使って保育を続ける姿はすばらしい。
- 【B】 園外活動は十分ではなかったかもしれないが自然（草木やはあ、野菜作り、生き物、雪など）に触れ、驚きと喜びを感じ、社会のルールや挨拶を身につけていけたことは良かった。
- 【A】 グループ活動によって子どもたちは自分の知識やアイデアを表現できるようになっている。状況に応じて自由に考えを述べるができる。教師は彼らを助け、一人ひとりの考えを発展させるのを導いている。

③ 保護者の気持ちに寄り添い、協同的な遊びの様子などをいきいきと伝える。

- 【A】 毎日の送迎時にもよく話すことができるし、連絡帳でも様子を伝えた。製作物を保護者に見せる一方、家で様子を聴くことに努めた。「て・くむ」もコミュニケーションの大きな役割を果たしている。
- 【A】 園での出来事や友達とのやり取りを詳しく聴くことができるのはありがたく、安心して預けられる。
- 【A】 担任の先生が日々園児の記録を取り、終礼では他の先生方とその様子を共有している。折を見てそれを保護者に伝える努力をしている点が素晴らしいと思う。
- 【B】 保護者と保育者の情報交換を密にして信頼関係を作ることにより、保護者が安心できている。
- 【A】 保護者との定期的なコミュニケーションと情報により、保育者はその子の援助が必要な部分に適切に対処できる。グループ活動の助けによって、子どもたちはうまく集団に参加していくようになっている。